

# 第3課

イエスについて



前の課において試みてきたことは、思考を用いてこの課程を続けるように励ますことであり、神を示す多くの「指示」のいくつかを示すことであり、神を人格の持ち主として認識できるようにさせることでした。

これまでは、イエス・キリストについてほんの少ししか語ってきませんでした。しかし、この課では、この人とこの人の主張をもっとくわしく調べてみるつもりです。この課であげられる証拠は、彼がその宣言通りの人物であり、その主張も現代の状況に適合することを信じるに足るものを選択しました。

クリスチャンの人生観は肯定的です。それは「ノー」ではなく「イエス」です。それは目的をもっています。クリスチャンとして、私たちはイエス・キリストが主張通りのお方であることを受け入れて、イエス・キリストを通して人生の意味への解決を発見したと感じています。それは、ほら穴からとび出てまばゆい太陽の下に出るようなものです。突然、光が臨みます。あやふやでありまいな不安定な感情はなくなります。クリスチャンはこのすばらしい発見を、人々が「われと汝」というイエス・キリストとの出会いを持ちたいと思うような言葉で他の人に伝えようとしています。

1971年12月、87歳の世界的に有名な著述家、伝道者E・スタンレー・ジョーンズ博士が心臓麻痺にかかりました。5時間にわたって彼はまったく体を動かせないうまま横たわっていました。彼の娘が病床に呼ばれました。彼女が到着すると、彼は彼女に気づき、大切なことを言いたい、と知らせました。

彼は弱々しいほとんど聞きとれない声で言いました。「娘よ、私は今死ぬわけにはいかない。“神の然り（肯定）”を書き終えるまでは生きなければならない」（ジョーンズ P.7）<sup>b</sup>。大きな苦しみと困難の中で原稿は完成しましたが、彼は満足に見ることも書くこともできなかったため、カセットテープの助けをかりなければなりません。その本は彼の死後2年たった1974年の春に出版されました。

本のタイトルは使徒パウロの次の言葉から来ていました。「神の“しかり”は彼（キリスト）の中についに鳴り響きました。なぜならば彼のうちに神の全ての約束を肯定する“しかり”があるからです」（第2コリント1：19-20モファット訳）。

ジョーンズ博士は、全生涯をキリスト教の牧師としてほとんどインドの地で奉仕したあと、また麻痺の病気にかかったあとでも、確固たる確信をもって次のように言いきることができました。

「そして遂に、とうとう神の“しかり”は彼を通して響きわたった。イエスこそ“しかり”である。この宇宙の背後には全被造物を愛しておられる父なる神がおられる。この父はイエス・キリストのみ顔の中にあらわれている。人生は全く変わりうる。われわれの空虚さは、われわれの内外の生活のあらゆる場所が聖霊に占領されるに及んで完全に充足される」（ジョーンズ P.21）。

## アウトライン

- イエスの神性
- イエスの復活
- イエスの目的
- イエスの弟子
- 挑戦

## 考えるための問題

1. 神が私たちに向かって「手をさしのべ」「私たちに話してくれるように」神に対して願う人間の求めの意義は何ですか。
2. 歴史家は「キリストの神話」にどう対処していますか。
3. イエスは道德家であると同意するだけで十分ですか。
4. イエスと他の3大宗教の創設者とをどのように比べることができますか。
5. あなたは弟子のペテロが経験したような人生の変化を経験した人に会ったことがありますか。
6. クリスマンにとって弟子となることは何を意味していますか。
7. あなたはイエス・キリストの人格によって個人的に挑戦を受けていますか。

## 用語の意味

公理的 —— 自明の真理として考慮される前提に関係するもの。

出会い —— 顔と顔を向い合わせる。会うこと。

終末論的 —— 宗教的待望における世の終わりとそれに関連した出来事に関するもの。

福音 —— キリストと神の国と救いに関する良い知らせ。福音が大文字で書かれた新約の最初の4巻は、イエス・キリストの生涯と死と復活を伝えている。

受肉 —— 肉体をとり、実体をとっていること。イエス・キリストにおける神性と人性に関係する。

メシヤ —— ユダヤ人が待ち望んでいた王，解放者。ある希望や主義をもった自称の、もしくは認められた指導者。

## 学課の展開

「神が私に御手をさしのべて、御顔をあらわし、私に語ってくれるとよいのだが！」

これはイングマー・バーグマンの「第七の封印」に出てくる登場人物の懇願です。

文学には、人間の絶望と宇宙における孤独感を表わしたこのような流暢な表現が多くあります。おそらく最も痛烈な例は、妻の死を聞いたマクベスの口に以下の言葉を入れたシェークスピアの強力なペンから来ているものでしょう。

「……消える、消える、短いろうそくが、人生はほんの歩く影、下手な役者。舞台の上で一生をいばって歩き、いらいらするそのあとでは何も聞こえない。人生は物語、白痴によって語られ、騒ぎと怒りに満ち、何の意味もないもの（マクベス5幕5場）」

このコースが書かれたものは、正にこの人間の絶望感と取り組むためなのです。

第1課で、私たちはあなたがこの教材の真剣な学びに身を入れることができるような事例をあげようとしてきました。第2課では、神を指し示す多くの指示をあげ、神は「それ」ではなく「彼」として最も良く表わされうることを確立することが目的でした。今、私たちはキリストの人格を考えなければなりません。

神は実際にご自身を啓示しておられます。人間は宇宙でひとりぼっちではありません。神は自然の中で私たちに語っているばかりか、御子イエス・キリストを通して私たちに御手をさしのべています。「御子（キリスト）は神の栄光

の輝き、また神の本質の完全な現われであり、その力あるみことばによって万物を保っておられます」(ヘブル1:3)。「神の本質の完全な現われ」という言葉は、ギリシャ語のキャラクター(人物・性格)の翻訳です。古代のギリシャ人は、貨幣の表面の版画やシールやスタンプを表わすときにこの言葉を用いました。このようにして、聖書記者はこの表現を用いて、キリストは神の性質の「正確な現われ」であると言っているのです。彼は時間と空間において私たちと共にいたし、今も人間の歴史の一部となっています。それ故に、イエス・キリストの人格を注意深く、考え深く考察することはきわめて大切なことです。



## イエスの神性

正統的キリスト教の教えは次のことを主張します。イエス・キリストは神であること、処女から生まれ、超自然的なわざを行ない、全人類の救いのために十字架で死に、死から復活し父なる神のみもとに昇天してあがないの計画を完成し、今は主の主、王の王として統治しているのです。何という主張でしょうか。教会だけではなく、イエスご自身もこのように主張しています。

さて、少し考えて下さい。これらはすばらしい主張です。これらの驚くべき断言に対して、考える反応を4つにしぼってみましょう。

### 彼は伝説上の人物であったか

イエスと彼の働きは伝説であるという説は、キリストの神性に対する最も重大な反対意見ですが、少数の人たちによって主張されているものです。この説の追従者にはいくつものグループがありますが、主に2つの方法で表わすことができます。ある人は断定的な言い方をします。「歴史家は今日イエスの歴史性を全く捨てている」(マクドウェル P.83)。

しかし、他の人たちは、たとえばカリフォルニア大の哲学教授アブラム・ストロールのような人は、もっと複雑な立場をとっています。彼は主張しました、「イエスといわれる人物はおそらく存在したであろうが、彼についての伝説があまりにも多くつくられたために学者がイエスの実像をさぐり出すことは不可能である」(モントゴメリー 1969 P.37)。

この見解をとると、イエスの弟子たちは人々にイエスの虚像を与えたと非難されていることとなります。第1世紀のパレスチナ人は歴史を通じて預言者によって約束されていた「メシヤ」、解放者を求めていたので、この非難はもっ

ともらしく聞こえます。イエスの弟子たちは、イエスの神性の後期の主張を紹介しなければならなかったことになります。ジョン・W・モントゴメリー教授はこの見解が受け入れがたい理由をいくつかあげています（モントゴメリー 1965 P.66-72）。

第1に、ほとんどのユダヤ人がメシヤについて抱いていた考えと、イエスをご自身のことを語ったメシヤ像とは大きな違いがあったという点です。彼はユダヤ人の期待したタイプとはまったく違って、彼らの国から見ると貧弱な候補者であったでしょう。

第2に、イエスの使徒たちと弟子たちとは高度な倫理的基準をもっていた人たちであったという点です。そのような訓練を積んだ人たちとして、彼らには心理的にも宗教的にも倫理的にもイエスを神にまつりあげようとするようなことはできなかったでしょう。たとえば、神の御名は非常に尊厳視されていたために、ユダヤ人たちは神の御名を発音すらしなかったし、まして普通の人に神の御名を帰することは考えられないことでした。彼らの深い、幾世紀にもわたるこうした伝統を知れば、彼らがこのような物語をでっちあげたなどということとは信じられないことです。

第3に、復活の歴史的証拠は、イエスを神格化しようとした熱狂的な弟子たちの発明ではありえなかったという点です。イエスの生涯は彼の死後わずか数年内に記録されたものでした。初期の記録から神話か伝説が出てくるには十分な時間がたっていません。少なくとも、彼の生涯についての2冊の本は目撃者による記事でした（マタイとヨハネによる本）。他の著者たちも確実に目撃者による記事と他の主要な資料を入手したでしょう。

実際は、イエスの弟子たちは新約聖書の記録ではなかなか信じられない者、疑いやすい者として描かれています。確かに彼らは、世界の多くの人たちをおよそ2000年にわたってイエスが神であることを信じさせることができたよう

な、イエスの伝説を考えるような人たちではなかったのです。これは鋭い攻撃にはちががありませんが、この説は不適當で不可能な説としてしりぞけなければなりません。

歴史的イエス・キリストは存在しないとする教義は、彼の実在を示す豊富な証拠を無視しているにすぎません。英国マンチェスター大学の聖書批評学と釈義の教授F・F・ブルースは、以下の言葉をもってこのようなアプローチの欠点を表明しています。

「ある著者はキリスト教神話の幻想をもてあそぶかもしれないが、彼らは歴史的証拠を根拠にそのようなことはしていない。キリストの歴史性は偏見のない歴史家にとってジュリアス・シーザーの歴史性と同様自明のことである。キリスト神話を言い広める者は歴史家ではない」(ブルース P.119)。

### 彼は嘘つきか

イエスは故意に人々をだましたのでしょうか。この非難はほとんどの人にとって考えられないものです。彼の神性を信じていない人たちでさえ、彼が善人であったことを、ふつうなお信じているからです。彼らは彼を高度な倫理的道德的基準を持った人、偉大な教師、偉大な道德哲学者、偉大な模範として賞賛します。

アメリカ人となったブリトン人トーマス・ペイン (1737-1809) は、彼の「理性の時代」という本の中でキリスト教を激しく攻撃しました。しかし、この強烈なキリスト教の反対者はイエスについてこう言っています。

「ここで言われていることは、イエス・キリストのリアルな人格に対してかすかな輕蔑をもってさえも適用することができない。彼は有徳の優しい男であった。彼が伝え、実行した道德は最も慈悲深いものであった。同じような道德体

系は孔子によって、ギリシャ哲学者の何人かによって、また、あらゆる時代の多くの善良な人間によって昔伝えられたものではあったが、それは他を寄せつけない群を抜くものであった」(フォーステス P.200-201)

イエスは世界最大の道徳家でした。彼は同時に陰険ないかさま師になりえたでしょうか。

「善良な」人間が、実際そうでないのに、肉体をとった神と主張して大衆をわざとだますでしょうか。彼は当時の人々に、悪魔は偽り者の父であり、偽りを言う者は悪魔の子であると熱心に宣言しました(ヨハネ8:44参照)。彼は自分から神の子であると主張しました。もし、彼の神性に対する主張が拒絶されるとしたら、彼の全生涯、働き、教え、名声は今日の私たちにあまり意味がなくなります。

しかし、彼の生涯、働き、教え、名声はすべて神性に対する彼の主張を固く支持しました。彼はご自分についてこう言いました。

「わたしが父におり、父がわたしにおられることを、あなたは信じないのですか。わたしがあなたがたに言うことばは、わたしが自分から話しているのではありません。わたしのうちにおられる父が、ご自分のわざをしておられるのです。わたしが父におり、父がわたしにおられるとわたしが言うのを信じなさい。さもなければ、わざによって信じなさい」(ヨハネ14:10-11)。

イエスは嘘つきという評判がたちませんでした。この攻撃は支持できません。健全な倫理哲学も支持しないでしょう。

### イエスは気違いであったか

イエスを最も偉大な道徳家と受け入れても、神の御子としては受け入れられない人たちの唯一の道は、彼は精神のバランスを欠いていた、おそらく自己をあざ

むいていたと信じることです。これはとても納得のいく結論とは思えません。というのは、精神のバランスを欠く人間が歴史上最大の偉人の列に加えられるほどの仕事を成し遂げそうにもないからです。

それでもそのように信じるほうを選択した、偉大な人たちが何人かいます。有名な人道主義的医者また哲学者のアルバート・シュバイツァー(1875-1965)はそのような人でした。「史的イエスの探究」という彼の本の中で、彼はイエスが自己の性質を誤解したという立場をとりました。それから彼は、イエスを精神病の非難から弁護する必要があると感じました。ストラスブルグ大学に提出された彼の1913年の医学論文は、「イエスの精神病的研究」という題がついていました。彼は、人間イエスは「正常な状態であったかもしれないが、自己を世の終わりに世をさばくために天の軍勢と共に再び来る終末論的人の子と考えた」ことを示そうとしました(モントゴメリ P.63-64)。

シュバイツァー博士の仕事は、歴史的な文脈の中でイエスを説明しようとした正直な人間の試みでした。しかしながら、彼の説明が不十分なことは、イエスについての彼の前提に従う人、受け入れる人や学者が少ないことによって証明されています。

もし彼が受肉した神の御子であると自分を考え、しかも実際はそうでなかったとしたら、イエスは狂っていたという結論を避けることはできません。しかし、イエスの健全な教えを考えると、彼が精神的に狂っていたとはとても受け入れることはできません。事実はその逆でした。精神分析医のJ・T・フィッシャーは、イエスに関して以下のようにはっきり断言しています。

「仮に最もすぐれた心理学者と精神分析医によってこれまで書かれた精神衛生学に関する権威ある論文をすべてまとめたとしても、そのすべてを結び合わせ、洗練を加え、多くの余計な言葉を整理したとしても、そして、これらの純粋に科学的な知識を現代の最も有能な詩人に要約して表現してもらったとして

も、拙劣で不完全な山上の説教集ができるであろう（マタイ6-8章）。それは山上の説教と比較すると全く問題にならないであろう。およそ2000年間も、キリスト教界はあくことなき実を結ばざる渴望に対して、その手に完全な解答を握ってきたのである。ここには、楽天的で精神的な健康と満足を伴った成功せる人生の青写真がある」（フィッシャー P.273, モンゴメリー, 1965, P.65より引用）。

### イエスは本当に主なる神か

もしイエスが、狂信的な弟子たちによって夢想された神話的存在や嘘つき、精神的なバランスを欠いた者として非難されえないとすると、残るはただ1つだけです。彼は自ら語った通りの人、すなわちキリスト、神の御子、人の子にちがいません。

イエスは、弟子たちと2階座敷にいたとき、彼らに多くのことを語りました。彼らに語った1つのことは、「あなたがたはわたしを先生とも主とも呼んでいます。あなたがたがそう言うのはよい。わたしはそのような者だからです」（ヨハネ13:13）。私たちは今、キリストの主張、その複雑さ、困難さと取り組む責任があります。しかし、究極的に私たちの前に置かれた問題は、ひとことと言えば「イエス・キリストは主なる神であるのか、そうでないのか」といえます。個人生活にイエス・キリストの完全な力を知るには、人はこの事実を知的に心情的にまったく確信しなければなりません。

イエスが私たちとは関係ない単なる知的的好奇心にとどまる限り、生ける神との個人的接触はありません。最後の段階は、イエスをあなたの主として受け入れること、彼を個人的に経験的に知ることです。

私たちはここでイエス・キリストの証拠が知的に健全であることを示そうとしてきました。4つの福音書の記録は彼の完全性、彼の罪なき性質、彼の謙遜

を表わしています。それ以上の証拠は、神的証印あるいは権威と奇跡の伴う幾世紀にもわたる時間を超えた彼のメッセージを通して、歴史的影響をもたらしたことに見られます。キリスト教が行くところではどこでも、個人の尊厳は高められ、神と人への奉仕の責任感は強められました。

「西洋世界全体において、カレンダーが新しくなるたびに、年月日が告げられるたびに、貨幣がつくられるたびに、全歴史の中心にいますお方への証しがある。私たちはキリスト以前 (B.C.) が私たちの主の年 (ラテン語の *anno domini*, A.D.) と年数を計算する。彼の誕生は無神論者と不可知論者、信者と未信者によって告げられる。このような方法によってだけ告げられるのである」(メンジー P.88)。

歴史、倫理、心理学、経験からの証拠は、明らかにイエスを主なる神と見方を示しています。中には、その要求ゆえに証拠を拒否する人がいるかもしれませんが。しかし、イエスが誰であるかをあなた自身で決める際には、道徳的正直さがなくてはなりません。

次ページの図は以上までのところを要約し、イエスの本質に関するいろいろな説を図で示したものです。よくこれを考えて下さい。彼の主張は正しいと受け入れることができますか。もしできるなら、あなたは最も重大な選択をすることになるのです。

### イエスの神性主張（3つの可能性）

彼の主張はうそだった

彼は自己の間違いを知っていた。それは故意であった。彼は嘘つきであった。

彼は神話、伝説である

彼は実在しなかった。  
彼は架空上の人である。

彼は、自分の主張が間違っていたとは知らなかった。彼は、自分の言葉どおりの人物である、と考えたにすぎない。彼は精神異常者であった。

彼は実在したが、彼について多くの物語がつけられたため、私たちは真実を知ることができない。彼は伝説上の人物である。

彼の主張は正しい

彼は、彼の言葉どおりの人である。あらゆるひざ、あらゆる頭、あらゆる舌は、彼が主なる神であることを告白するであろう。

だが、2つの選択がある。どちらかを選ばなければならぬ。

あなたは受け入れることができる。  
あなたは拒むことができる。



## イエスの復活

世界の4大宗教を除くすべての宗教は哲学的命題から始まっています。4大宗教は創始者の人格的影響力に基づいています。4大宗教とはユダヤ教、仏教、イスラム教、キリスト教のことです。ユダヤ教の父祖アブラハムはおよそB.C.1900年に死にました。仏陀の死の最初の記事はマハパリニバーナ・スッタに記録されていますが、そこには彼が死んだとき、それはあとに何も残らない完全な死去であったと言われています。イスラム教の創始者モハメッドはA.D.632年、61歳のときに死にました。彼の墓は忠実な巡礼者たちによって定期的に参拝されています。ユダヤ教、仏教、イスラム教の正統的教えの中には、創始者の肉体的復活に対する本文の主張は何もないのです（マクドウエルP.185-187）。キリスト教にはその主張があります。

この点、キリストはユニークです。なぜなら、彼は自分が十字架で死ぬだけではなく、3日目に再び生き返ることを教えたからです。このことは彼の預言通りにすべて起こりました。イエスの生涯を記録したあの信頼できる人たちは、他の多くの人たちと共に、イエス・キリストの復活の真実性に対する目撃者でした。彼の復活は、新約聖書の最初の奇跡です。それはまた、あらゆる時代のあらゆる人にとって、最も意味のある奇跡です。

この異常な歴史の事実を否定し、疑わせようとする巧妙な試みがこれまでなされてきました。イエスは本当は死ななかつたのだ、苦痛で失神したにすぎない、と言う者もいます。復活そのものと同様に古いもう1つの考え方は、イエスの体は彼の友人たちや弟子たちによって墓から盗まれたものだ、というものです（マタイ28：13）。いや、彼の死体を盗んだのはイエスの敵であると教える者もいます。もっとこじつけたような見方は、墓は本当は空ではなかつた、イエスの弟子たちがキリストの超自然的幻を見たもので、復活は彼らにまつわりついていたキリストの霊の意識にすぎない、というものです。言いかえる

と、それは本当は体の復活ではなく、霊の復活であった、というものです。

4番目の説によると、イエスの弟子たちは悲嘆にくれて、生きているイエスに会いたいとの願望が強かったので、彼らは幻覚を経験したか、視覚的幻想の犠牲になったのだ、と説明されます。イエスの死体は墓に入れられなかった、つまり、死体はちゃんと埋葬されないでイエスと一緒に処刑された犯罪人の死体と共に穴にほうりこまれたのだ、という人、また弟子たちと忠実な追従者たちは墓をまちがえたのだと信じている人もいます。

復活を否定するためのこれらすべての説明は、捨てなければなりません。なぜでしょうか。少なくとも4つの大きな理由があります。

第1に、これらの説は相互に排他的で、記録された物語と調和しない拡大解釈を反映しているということです。

第2に、イエスの弟子たちを嘘つき、盗人、精神異常者、愚か者と非難する納得のいく根拠は何もないということです。

第3に、イエスの復活は、新約聖書中、復活後、何回も現われた彼を見た500人以上の人たちによって証言されている点です。使徒パウロは記録しています。「その後、キリストは500人以上の兄弟たちに同時に現われました。その中の大多数の者は今なお生き残っていますが、すでに眠った者もいくらかいます」(第1コリント15:6)<sup>9</sup>

第4に、クリスチャンは、自分たちは真理と光と命と力をもっていると言います。この同じ人たちが、実際起きてもないのにイエスは復活したなどといって世の人をかつごうとしたのだと非難することは、つじつまが合いません。さらに、多くの目撃者は、イエスが死人からよみがえった事実を否定するよりも、死刑に処せられることを選びました。偽りであるとわかっていること

を弁護するために、彼らは命を捨てるようなことはしないでしょ。復活は実際に起きたのです。それはだましごとではなく、本当です。

キリストの死にまつわる事実だけでなく、イエス・キリストの神性の非常に興味深いもう1つの証拠についてほんのひと言。神の御心を人々に教えるために旧約聖書で神が用いた1つの手段は、神から人々にメッセージを語った「預言者」によるものでした。これらのメッセージの中には、幾世紀も通じて、様々な神の代弁者たちによって、来たるべき約束のメシヤ、救い主についての預言が多く含まれています。キリストの誕生、生涯、奉仕、死、復活に関するすべての預言は、イエス・キリストにおいて完全に成就しました。

復活に関してはもっと多くのことを言うことができます。おそらく、あなたはこの章の最後に挙げられている参考資料のどれかを読んで、学習を深めることができるでしょう。この大切な部分を、新約学者のバーナード・ラム博士の言葉をもって要約してみましょう。

「クリスチャンはイエス・キリストの復活を歴史的事実として受け入れる。クリスチャンは、その神論のゆえに復活は起こりうると考える。その理論的根拠はキリスト教神学の中に見いだされる。その歴史性は、新約記録の全ページにわたる旧約預言からの確かな広範囲に及ぶ証言によって、教会史における初代教父の著書によって、そして初代の信条において証明されている」(ラム P.193)。

---

## イエスの目的

もしイエス・キリストが神の御子であり、もし彼が十字架で死んで死から復活したなら、その背後にある「真の」目的と意味は何なのでしょう。そう、キリスト教の核心はイエス・キリストとの人格的、個人的出会いでした。

おそらく、イエスがこの世に來臨した目的を理解する一番わかりやすい方法は、イエスと他の人たちとの古典的な出会いの形態を見ることでしょう。イエスの最初の弟子たちの中から、ガリラヤの漁師シモンのゆるやかな人格の変化を見てみましょう。

シモンは、太陽のもとでの労働で日に焼け、外の匂いのしみこんだプロの漁師でした。彼は気が早くて怒りっぽい衝動的な人間でした。シモンの兄弟アンデレは、彼をイエスに紹介しました。イエスはシモンに出会うと「あなたはヨハネの子シモンだね。だがこれからは、ペテロ、つまり『岩』と呼ばせてもらうよ」（ヨハネ1：42 リビング・バイブル）。イエスはシモンに現われる変化を直ちに知って、彼の名前を「岩」を意味するペテロと変えることで、そのことを示したのです。イエスは、以前のカッとしやすい衝動的な人間シモンをペテロに変えて、やがて「岩のように不動」の人物になるであろう変化が起こることを知ったのです。

イエスは、すべての人をこのように見ます。彼は人間の弱さを見、知っています。人が彼に向き直るとき、彼はその人を強い、健康的な人物にしようと計画します。このように彼は私を見、このように彼はあなたを見ています。

あなたは、「私はイエスを受け入れていないのに、どうして彼が私のことを知ることができるのだろうか」と言われるかも知れませんが、あなたの心の奥での思いは、彼には開かれた本と同じなのです。世のすべての人には隠されている秘密があるかもしれませんが、彼から隠されている秘密は1つもありません。イエスは私を知り、あなたを知っています。イエスは生まれてきたあらゆる人の歩みに、時には人の注意を向けようとして、つき従っています。あなたが、ここまでこの学びをしてこられたのも、偶然ではなかったのです。ペテロがもったイエスの経験をあなたも持って下さい。

ペテロの人生の変化は、どのようにして起きたのでしょうか。基本的に3つ

の段階が含まれていました。

第1に、ペテロの側に意志の働きかけがあったということです。彼は意識的に自己をキリストに明け渡しました。彼はあとであやまちを犯しました。1度限りで彼は完全になったのではないのです。彼には、軽卒に語り、せっかちに行動し、あわてて約束したときがありました。それでも彼は、キリストにささげきっていました。そして、彼はイエスに従い、イエスを信じ、信頼しつづけたのです。徐々に彼は、キリストの影響力が彼の人生に強くなるにつれて、理解し始め、変わり始めました。

第2に、ペテロはちゅうちょなしに、無条件でキリストを知的に受け入れなければならぬことに気がつきました。彼はまず意志（心）と情緒（感情）をイエスにささげました。しかしペテロは、彼の知性や理性にも同じことをしなければならないことに気づきました。彼は考えることをやめたり、「知的自殺」を遂げたりすることもしませんでした。しかし彼は、疑問が解けなくても、個人的な悩みがあっても、論理的に反対と思えるようなことを感じて、キリストを信頼することを固く決心しました。これをイエスは「信仰」と呼んだのです。もし人がイエスを見なくても、信じる信仰さえ持てるなら、確信と洞察と理解が与えられる、と教えました（ヨハネ20：29）。

第3に、ペテロは残る生涯を、イエスに完全に疑いをさしはさまないで服従しました。これは献身の究極的なテストです。それは人生の旅路を正確に知らなくても、常に安易な道であるとは期待できなくても、喜んでキリストに従うことです。

これがデートリッヒ・ボンヘッファー（1906-1945）が言う「弟子となること」（ボンヘッファー P.36）です。彼は高く評価されている若いドイツ神学者であり、その著書は多くの言葉に翻訳されています。

イエスとの出会いは高価なものです。それは、あなた自身の意志を神の意志に服従させることを意味します。ペテロは、自分が何をしているのか十分わからないでイエスに従いはじめたかもしれません。彼の直面した問題が大きくなるにつれて、彼は自分の信仰も成長したことを知りました。彼はまた、困難にもかかわらず、キリストに一切をまかせたとき、人生は以前よりも良くなったことを知りました。

これがイエスの来臨の目的です。神の御子が人となることで、人が神の子供になるためです。神は神の子たちが神の命と働きに永遠にあずかることを願いました。この目的を達成させるために、神はこのような方法を選んだのです。すべての人は、ちょうどペテロのように、イエス・キリストの強くて優しい影響力の下で変えられうのです（第2コリント5：17）。

---

## イエスの弟子

この課の目的は、単にあなたを導いて頭をうなずかせて、かつて歴史的イエスのいたこと、今も彼の主張通りに生きていることに同意させるためではありません。知的同意は十分ではありません。イエスをシーザーやプラトンを信じるように信じるだけでは、私たちの目的は果たせません。

シーザーやプラトンは死にました。ですから熱烈に彼らを信じて、彼らに反対しても、少しも大した問題にならないのです。しかし、イエス・キリストは今も生きています。「今も彼を愛し、彼を憎んでいる人たちがいる。キリストを愛するための情熱があり、彼を滅ぼすための情熱がある。彼に反対する多くの人の怒りは、イエスが死んでいないことの証拠である」（ポーウィP. 8）。だからひとたびイエスが完全にわかったら、彼に対して無関心な態度はとれないのです。

「私たちは彼の権威に頭を下げ、彼の教えを受け入れなければならない。私たちは彼の意見によって自己の意見が形づくられるようにしなければならない。彼の見方によって自己の見方を調整しなければならない。そして、これには彼の心地よくない流行おくれの教えが入っているのである」(ストット P.210)。

私たちがイエス・キリストに従うように召されるとき、彼のみを愛することへの召しなのです。弟子となるとは、キリストに密着することです。キリスト教は単に多くの宗教的情報を知るのではなく、イエスを主なる神と知ってイエスにどこまでも忠実に従うことです。

あなたはイエスを信じることができませんか。おそらくそれは、あなたが抵抗してイエスに委ねることをしていないからでしょう。最も抵抗の少ない水路を流れている、山の小川のようにならないで下さい。ボンヘッファーは絞首刑に処せられました。彼のクリスチャンとしての献身が、時の体制と衝突したからです。彼は「安価な恵み」と「高価な恵み」のことを語っています。「安価な恵みとは、イエスの弟子とならない恵みであり、十字架のない恵み、生ける受肉せるイエス・キリストぬきの恵みのことである」(ボンヘッファー P.36)。

キリストは、自己否定、隣人との和解、他者への奉仕、人生に深く関わること、善を求めて悪と戦うこと、そして必要とあらば苦しむことについてさえ語っています。弟子となるということは、どのような価を払うにせよ、勝利のキリストに忠誠をつくすことであって、世捨て人となって社会から隔絶することではありません。それは、市場の騒がしさと悪臭の中で、堅く真理に立つことを意味します。あなたは安っぽい恵み、浅い経験、気まぐれな礼拝、忠実でない弟子にどのような価値をおきますか。この種のクリスチャンは非常に多いのです。キリスト教が真剣に受けとめられていない1つの理由は、ここにあります。不幸にも、クリスチャンであると主張している者の中にも、それを十分真剣に受けとめていない人がいるのです。キリストの召しは完全な弟子となる

ことであり、意識的に自覚をもってすべての主なるイエス・キリストにささげられた意志であり、知性であり、感情なのです。

## 挑戦

C・S・ルイスはこの課を要約しているような、非常に明確な挑戦を提示しています。

「単なる人間にすぎない者が、イエスの言ったようなことを言ったとしても、偉大な道徳的教師にはなれない。彼は気違いか——『おれは落とし卵だ』と言ってきかない男と同類か——さもなければ地獄の悪魔か、そのいずれかであろう。あなたは選択しなければならない。この男は神の子であったし、今もそうだと考えるか。さもなければ、狂人もしくはもっと悪質なものと考えるか。彼を愚者としてとじこめ、彼につばをかけ、悪鬼として彼を殺すか。さもなければ、彼の前にひれ伏して、これを主または神と呼ぶか。どちらでも選ぶことができる。しかし、彼を偉大な人間の教師などと考える恩きせがましいナンセンスだけはやめようではないか。彼は、そんなふうを考える自由を与えてはいない。そのように考えさせるような意図は彼には全くなかったのである」（ルイス P.56）。

あまりにも多くの人が、イエス・キリストのチャレンジに直面したくない、という理由だけで、片手をふってキリスト教を捨てようとしています。いろいろな所にいるあなたがたは、キリストの人格にぶつかったなら、彼を人生に迎え入れることがどのような道徳の意味を持つようになるか、恐れてはなりません。証拠を十分に調べ、考えるまで、彼を拒否して絶望の夜にまいもどってはなりません。恐れるか、怠慢か、のいずれかで多くの人が彼を受け入れようとしないのです。キリスト教の行動基準と弟子化へのチャレンジに直面しない背



後には、逃避主義者の恐れがひそんでいます。逃げた方がやり易く、気が楽に見えます。

イエス・キリストは、人と神との和解をもたらすために来ました。この和解の精神をもって、イエスは、人種、皮膚の色、背景、過去の行動にかかわりなく、あらゆる場所のあらゆる人を招きました。すべての人が、彼のもとに来るように招かれているのです。

そうだとしたら、なぜ人々はあたかも彼が何も重要なものを持ち合わせていないかのように、イエスが出てくる本を1度も開きたくないと思い、彼を素通りしたいと思っているのでしょうか。どのような理由であれ、あなたはそのようなことをしないで下さい。むしろ、あなた自身を深く見つめて、以下の祈りをささげて彼に向かって次の重要なステップをふんで下さい。

父なる神さま、イエスを単なる  
偉大なる教師と考えることで  
満足してしまうようなこと  
のないようにして下さい。

イエスを私にとって  
私の最良の友以下  
私の永遠の救い主以下  
私の確かな力以下  
私の不滅の希望以下  
の存在に決してしないで下さい。

そしてイエスが私にとって  
意味あることを、いつも人  
に透けて見えるようにして下さい。

(ゲッシュ P.60)

## 引用参考書——第3課

1. Bonhoeffer, Dietrich. *The Cost of Discipleship*. (弟子となる価) New York, New York, USA: The Macmillan Company, 1959.
2. Bowie, Walter Bussell. *The Master*. (主なる神) New York, New York, USA: Charles Scribner's Sons, 1958.
3. Bruce, F. F. *The New Testament Documents*. (新約文献) Grand Rapids, Michigan, USA: Wm. B. Eerdmans Publishing Company, 1960.
4. Fisher, J. T. and Hawley, L. S. *A Few Buttons Missing*. (失われたわずかのボタン) Philadelphia, Pennsylvania, USA: J. B. Lippincott, 1951.
5. Foerstes, Norman, ed. *American Poetry and Prose*. (アメリカの詩と散文) Boston, Massachusetts, USA: Houghton Mifflin Company, 1934.
6. Gesch, Roy G. *Help! I'm in College*. (助けてくれ、私は大学にいる) St. Louis, Missouri, USA: Concordia Publishing House, 1969.
7. Jones, E. Stanley. *The Divine Yes*. (神の然り) New York, New York, USA: Abingdon Press, 1975.
8. Lewis, C. S. *Mere Christianity*. (キリスト教の精髓) New York, New York USA: The Macmillan Company, 1967.
9. McDowell, Josh. *Evidence That Demands A Verdict*. (判決を必要とする証拠) San Bernadino, California, USA: Campus Crusade for Christ, Inc.,

- 1972.
10. Menzies, William. *Apologetics: Study Guide*. (弁証論学習の手引) Brussels, Belgium: International Correspondence Institute, 1976.
  11. Montgomery, John Warwick. *History and Christianity*. (歴史とキリスト教) Downers Grove, Illinois, USA: Inter-Varsity Press, 1965.
  12. \_\_\_\_\_ *Where Is History Going?* (歴史はどこへ行くか) Minneapolis, Minnesota, USA: Bethany Fellowship, Inc., 1969.
  13. Ramm, Bernard. *Protestant Christian Evidences*. (プロテスタント・キリスト教の証拠) Chicago, Illinois, USA: Moody Press, 1953.
  14. Shakespeare, William. *The Works of William Shakespeare Gathered into One Volume*. (1巻に編集されたウィリアム・シェークスピアの作品) New York, New York, USA: Oxford University Press, 1938.
  15. Stott, John R. W. *Christ The Controversialist*. (論客イエス) London, England: Tyndale Press, 1970.

## 今後の学びのために

Bonhoeffer, Dietrich. *The Cost of Discipleship*. (弟子となる価) New York, New York USA: The MacMillan Company, 1961.

この本全体が一読の価値がある。多くの人に影響を与えてイエス・キリストに向かわせた本。

Lewis, C. S. *Mere Christianity*. (キリスト教の精髓) New York, New York, USA: MacMillan Company, 1965.

あらゆる人が時間をさいてこの偉大な英国の文学批評家、作家、クリスチャンによるすばらしいこの本を読むことをおすすめする。

McDowell, Josh, ed. *Evidence That Demands A Verdict*. (判決を必要とする証拠) San Bernadino, California, USA: Campus Crusade for Christ, Inc., 1972.

この本にはキリスト教に関する引用、事実、情報が満ちている。5—10章でイエス・キリストが論じられている。

Morison, Frank. *Who Moved the Stone ?* (だれが墓石を動かしたか) London, England: Faber and Faber Limited, 1969.

イエス・キリストの復活の事実に関するすぐれた研究書である。

Ramm, Bernard. *Protestant Christian Evidences*. (プロテスタント・キリスト教の証拠) Chicago, Illinois, USA: Moody Press, 1953.

6,7章でイエスの復活が論じられている。個人学習には非常に有益である。

Stott, John R. W. *Christ the Controversialist*. (論客イエス) London, England: Tyndale Press, 1970.

キリスト教を真剣に求めている人々にとって価値ある良書である。

## 自 習

- 1 ピリピ2：5—11を読みなさい。このテキストは「肉をまとわれた」神について何をあなたに語っていますか。

.....  
.....

- 2 あなた自身の意見に従って、イエスの主張についての4つの可能性を評価しなさい（各項目について短評を加えること）。

伝説.....

嘘つき.....

犯人.....

主なる神.....

- 3 復活物語を読みなさい（マタイ28：1—15，マルコ16：1—14，ルカ24：1—41，ヨハネ20）。マタイとルカの記事から、その中の2種類の人たちの反応をあげなさい。弟子たち（信者たち）とその他の人たち（未信者たち）の反応。

弟子たち.....

他の人たち.....

- 4 他の世界3大宗教と比べたキリスト教の独自性は、キリストは復活し、今も生きていることです。キリストとの個人的関係を持つとすると、このことはあなたにとってどのような意味をもちますか。

- .....
- 5 旧約聖書はイエスのベツレヘムでの誕生の数百年前に、イエスに関する情報をもっていたと言われます（ルカ 2：1—7）。以下の旧約の御言葉を読み、その箇所がイエスについて具体的に何を指しているのかを考えて下さい。

イザヤ 7：14 .....

ミカ 5：2 .....

ゼカリヤ 11：12—13 .....

イザヤ 53：9 .....

- .....
- 6 シモンの生涯にあらわれた変化と、完全に弟子になることへの挑戦を、どのように感じますか。 .....

.....

## 自習のガイドライン

1 神は人間のかたちをとり、人間となった。彼は死にさえも自発的に従う従順なしもべとして来た。しもべとしての彼の義務は今は終わり、ある日すべての人が、人となられた神が主なる神であることを認めるようになる。

2 あなたの答え

3 〈弟子たち(信者たち)〉

女たち——途方にくれた(ルカ24:4)

恐れた(ルカ24:5)

恐れと大きな喜び

(マタイ28:8)

理解(ルカ24:8)

礼拝(マタイ28:9)

〈他の人たち(未信者たち)〉

番兵たち——恐れおののいた

(マタイ28:4)

番兵たちと大祭司たち——なく

なった死体の問題を説明する

ための話をでっちあげた

(マタイ28:11-15)

弟子たち——不信仰(ルカ24:13)

混乱と悲しみ〔エマオ〕(ルカ24:13-24)

信仰と喜び〔エマオ〕(ルカ24:31-35)

驚きと恐れと疑問(ルカ24:37-38)

あまりに良い知らせで信じられない〔喜びが

大きく信じられない〕(ルカ24:41)

礼拝と疑い(マタイ28:17)

理解(ルカ24:25)

喜びと礼拝(ルカ24:52, 53)

4 人は事実以外のことを語ることはできない。もしイエスが生きているということが事実であるなら、彼との関係をもつことができます。このように、

復活が事実であるときにのみ、個人的な関係が成立するのです。

- 5 イザヤ7：14——少女（処女）が子を生子、彼の名はインマヌエルと呼ばれる（神われらと共にいます）
- ミカ5：2 ——ベツレヘムがメシヤの出生地となる
- ゼカリヤ ——イエス（メシヤ）は30シケルで裏切られる（マタイ26：14—16, マルコ14：10, 11, ルカ22：3—6）
- イザヤ53：9——彼は富める人の墓にほうむられる（マタイ27：57—60, マルコ15：43—46, ルカ23：50—53, ヨハネ19：38—41）
- 6 あなたの答え、あなたはシモンの生涯にあらわされた態度と行動のゆるやかな、また継続的な変化を見るであろう。



## 自己採点復習

1 神はどのような方法で人類の必死の願いに答えましたか。正しい応答を○で囲みなさい。

- a) 神は人間を無意味な人生のままにさせた。
- b) 神はイエス・キリストを通してご自分を示された。
- c) 神の性質は自然の中に啓示され、それで充分である。
- d) 神は時間と空間と人間歴史の中に入ってきた。
- e) 神は人間は宇宙でひとりぼっちであることを示した。

思考の刺激：これは神の性格について、何を示しているだろうか。これは人生について何を示しているだろうか。

2 伝説上のイエスとクリスチャンの応答についての以下の論議を組み合わさなさい。空欄に適切な応答の番号を書き入れなさい。

- |         |                               |    |                                    |
|---------|-------------------------------|----|------------------------------------|
| ..... a | 弟子たちはわざと物語を偽造した。              | 1) | これらの人たちは、すぐ信じることのできない疑い深い人たちであった。  |
| ..... b | 弟子たちは自分をあざむいた。                |    |                                    |
| ..... c | 弟子たちはメシヤを必死に求めていた。            | 2) | 時間が十分なかったこと、目撃者が多いことは、このことを反証している。 |
| ..... d | 弟子たちは狂信的に復活をつくりあげた。           | 3) | だれかを「神」と呼ぶことはユダヤの伝統に反していた。         |
| ..... e | 弟子たちはイエスをもっと偉く見せるために彼に神性を帰した。 | 4) | 弟子たちは倫理的に伝説をねつ造することはできなかった。        |
|         |                               | 5) | イエスはユダヤ人が考えた解放者とは異なっていた。           |

思考の刺激：あなたがイエスは歴史的存在であることを信じる、十分な証拠がありますか。

- 3 イエスは故意に人々をあざむいたという考えに、以下のどの論議が答えているでしょうか。適切な論議を○で囲みなさい。
- a) 彼は肉体をとった神であると主張した。
  - b) 彼は有徳の人として世界中の人から賞賛された。
  - c) 嘘をつくことは彼の品性と一致しない。
  - d) 彼は偽り者としての悪魔に敵対した。
  - e) 彼は神の権威と、彼を通じて行なった神のわざに訴えた。

思考の刺激：イエスは善良な人で偉大な道徳的教師であった、というキリスト教の反対者に同意しますか。

- 4 創始者の復活はキリスト教を他宗教と区別している。以下のうち、復活に対する合理的証拠はどれか。あなたが選ぶ証拠を○で囲みなさい。
- a) 弟子たちが行き着いた墓は空であった。彼らはイエスの死体を発見できなかった。
  - b) 死と復活はくわしい預言と一致している。
  - c) 弟子たちは復活を切に望んでいたので、復活を信じた。
  - d) 弟子たちは復活を否定するよりも死を選んだ。
  - e) 500人の目撃者は、復活を証言することができた。

思考の刺激：この種類の証拠が他の歴史的出来事にもあるなら、あなたはその出来事を信じますか。

- 5 シモン・ペテロの、イエスとの出合いに関する以下の叙述には、正しいものと誤ったものがある。空欄に、正しいものに○、誤ったものに×を書きこみなさい。

- ..... a) 彼は突然、完全になった。
- ..... b) 彼は無条件でイエスを受け入れた。
- ..... c) 彼は安価な恵みを信じた。
- ..... d) 彼の献身は意志の行為であった。
- ..... e) 彼はイエスに出会ってからは、1度も興奮したことも衝動的になったこともない。
- ..... f) 彼は岩に変えられた。
- ..... g) 彼の生涯は弟子となることの模範である。
- ..... h) 彼は知的自殺をした。
- ..... i) 彼はすべてがわからないときも、キリストを信頼した。
- ..... j) 彼は疑問をもたないでイエスに従い続けた。

思考の刺激：イエスはペテロの過去の仕事ではなく、その可能性を見て彼を選んだ。あなたは同様に、自分と他の人を見ていますか。

6 以下の文を「キリストの弟子」の定義からつけ加えて完成しなさい。学課の展開から答えをさがして空欄に書きこみなさい。

- a) \_\_\_\_\_ に対して情熱的であること。
- b) 彼の \_\_\_\_\_ と \_\_\_\_\_ を受け入れること。
- c) 絶対的にイエスに \_\_\_\_\_ こと。
- d) 多くの \_\_\_\_\_ を知る以上のこと。
- e) イエスを \_\_\_\_\_ と知ること。
- f) 人生に深く \_\_\_\_\_ こと。
- g) 隣人との \_\_\_\_\_。
- h) 日常生活で \_\_\_\_\_ に堅く立つこと。

思考の刺激：あなたの生活に、これと似た献身がありますか。その共通点と相違点とは何でしょう。

## 自己採点復習解答

- 1 b) と d)
- 2 a) 4)  
b) 2)  
c) 5)  
d) 1)  
e) 3)
- 3 b), c), e)
- 4 b), d), e)
- 5 a) ×  
b) ○  
c) ×  
d) ○  
e) ×  
f) ×  
g) ○  
h) ×  
i) ○  
j) ○
- 6 a) イエス  
b) 権威 教え  
c) 従う  
d) 宗教的情報  
e) 主なる神  
f) 関わる  
g) 和解  
h) 真理

- a 前課の脚注で説明したように、私は神であり人であるイエス・キリストとの個人的出会いを言うのに、マルチン・ブーバーの「われと汝」の表現を用いた。この意味で、「われと汝」はキリスト教の表現そのものである。
- b 資料のいくつかは本の見返しからとった。この偉大な人物の霊的な「遺書、遺言」への序言は、彼の娘のユニース・ジョーンズ、マシューズによって書かれた。
- c この言葉は、米国ニューヨーク州の政治家として候補に立った、マルキストによって語られた。
- d この表はマクドゥエル P.108から採用し、拡大したものである。
- e パウロは、これらの証人は今なお生きて確かめられることを強調して、復活の事実を調べるように言っていることに注意せよ。ローマの法廷で弁護したとき、パウロが言ったように、「これらのことは片隅で起こった出来事ではありません」（使徒行伝26：26）
- f ボウイはギオバニ・パピーニの「キリストの生涯」、1923, P. 6 から引用している。パピーニ（1881—1956）は、イタリアの哲学者、歴史家、批評家で、キリスト教の反対者であった。1920年に、彼はローマ・カトリックに回心し、現在、1921年に書かれた「ストリア・ディ・クリスト」（キリストの生涯）という有名な本で最も良く知られている。

